

2023年度(令和5年度) 自己評価・学校関係者評価報告書

日本バプテスト春日原キリスト教会附属 恵星幼稚園

【自己評価】

◇自己評価検討会議日：2024年3月7日(木)

I. 本園の教育目標(目指す子ども像)

- ・ 神さまと人に愛される子ども
- ・ いきいきと生活する子ども
- ・ 仲間と育ちあう子ども

II. 今年度重点的に取り組む目標・計画

- 発達と生活の連続性を大切に、1年を、子どもの実際の姿に照らしたゆるやかな区分で保育する。
- カリキュラムは学年別で期ごとに出すが、将来的に発達の区分に合わせて作成できるように考えていく。
- 教育要領に照らしつつ、あそびを中心とした教育活動が子どもの学びとなっているかに着目して、保育の振り返りをする。

III. 評価項目の達成及び取り組み状況 (評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

| | 評価項目 | 評価 | 取り組み状況 |
|---|-------------------------|----|--|
| 1 | 子ども一人ひとりの課題や目標にあった指導や配慮 | A | <ul style="list-style-type: none">・ 一人ひとりの個性や課題を把握し記録することによって、苦手なことはその子のペースに合わせて取り組んだり挑戦したりしていけるよう工夫した。(表を作ってシールを貼る、道具が正しく使えているか確認する、落ち着いて取り組める部屋の環境をつくるなど)・ 子どものやってみようという意欲を引き出せるような話し合いの場を設定したり、課題を達成できてもできなくても、その過程に意味があることを伝えたりしながら、子どもの気持ちを受けとめることを丁寧に行った。 |
| 2 | 教師としての資質 保育の向上 | B | <ul style="list-style-type: none">・ 常勤教諭は春日市・私立幼稚園連盟が主催する研修には積極的に参加し、重大事故防止・食育・個別への配慮等、保育に活かせることを共有している。・ 常勤・非常勤に関わらず、園として大切にしている保育観や今の子どもに合わせた計画の見直し等、共通の認識を再確認できるような内部研修の計画が必要。 |
| 3 | 保護者への対応 | B | <ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルスが5類に移行となり、親子遠足で皆と一緒に昼食を食べたり、クリスマスの観覧人数を増やすことができたりと、保護者に保育に参加してもらえる時間が増え、コロナ以前に戻りつつある。・ 保護者会でも、リズム講座や性教育講座などを計画していただき、学んだことを保護者同士でも保護者と教師間でも共有することができた。・ 保護者アンケートの「教職員は保護者の悩みや子どもことについて相談にのってくれる」という項目について、園としては、お迎えの際に保護者に声をかけたり、年間行事予定で定められている懇談期間以外にも懇談の機会を設けたりと、保護者との時間をとれるよう努めている。しかし教師が忙しそうにしていたりして、声をかけにくいと感じている保護者もおられるかもしれない。教師は子どもに対してだけでなく、保護者の気持ちにも寄り添い、温かく迎え入れることができるように努力する。 |

IV. 総合的な評価結果

| 評価 | 理 由 |
|----|--|
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりに合わせた保育は日頃から心がけており、保護者にも評価していただいているが、学年の発達に応じた目標の共通認識を教師間でさらに深められるよう、情報共有が必要。 ・保護者の気持ちにも寄り添いながら園全体で子育て支援をしていけるよう、温かい雰囲気づくりと、子ども理解、保護者理解に努めていく。 |

(評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)

V. 今後取り組む課題

| | 課 題 | 具 体 的 な 取 り 組 み 方 法 |
|---|---------|---|
| 1 | 保育内容の充実 | ・コロナ下で育ってきた子どもたちの身体の発達を促したり、社会と関わる力を保障したりするような活動を計画する。(さくらんぼリズムで、足の指をしっかりと立てることを丁寧に見ていく、近隣の散歩を増やすなど) |
| 2 | 安全管理 | ・災害時に保護者と相互連絡を確実にとれるような連絡の手段を検討する。(LINEやアプリなど)また、引き取り訓練を行い、災害時における安全確保のためのシミュレーションができるような機会を設ける。 |
| 3 | 地域との連携 | ・小学校や市の療育施設とは連携をとっているが、地域の公民館などとのつながりが希薄。地域の見守りに協力いただいている施設との交流を計画する。(保育者が定期的にご挨拶に伺う、子どもたちと施設を訪問し、その施設や携わる方たちの働きを知るなど。) |

.....

【学校関係者評価】

◇学校関係者評価委員会開催日：2024年3月7日(木)

◎学校関係者評価委員会の評価

| 評価 | 所 感 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・園児一人ひとりの個性や発達段階を理解し、縦割り保育の中で学年に応じた保育が行われており、同じ子どもでも学年が進むと教師の対応や求める姿が自然に変化していくことが評価できる。 ・子ども主体での話し合いの機会を設け、結論を急がせずに子どもの気持ちや意見を尊重して待つ保育が成長に繋がっている。 ・教職員の自己評価(B)は厳しいと感じるが、現状で満足せず更に向上心を持って次年度を迎えようとする姿勢がより良い保育を生み出している。 ・途中入園の保護者もわかるように、細かい決まり(ハーフパンツの注文は通年できる・パンで足りない場合は補食を持ってきてても良い等)まで要覧に記載しておくが良い。 ・保護者アンケートへの回答をホームページに載せても見ない人もいるので、保護者会などで保育に対する説明(なぜそうしているかの経緯など)を伝えると、より理解が深まるだろう。 |

(評価 A:よくできている、B:だいたいできている、C:あまりできていない、D:できていない)